

北九州市の海と空の物流拠点化が大きく進展！

～北九州港・北九州空港の貨物取扱量が**過去最高**を更新！～

北九州市では、「稼げるまち」の実現に向けて、企業の活動を支える陸・海・空の物流ネットワークの構築を重要戦略に掲げ、市内物流インフラの機能強化と利用促進を推進しています。

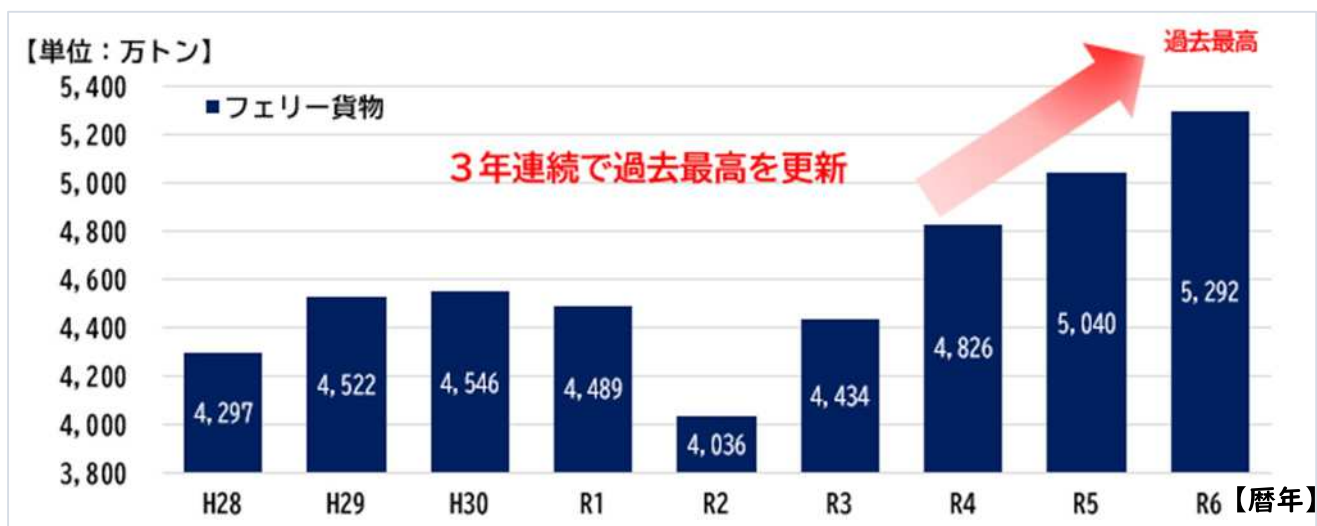
中でも、重要な海と空の物流基盤である北九州港・北九州空港は、本市の「物流」の発展に欠かせない成長エンジンです。

そのような中、関係者による機能強化と利用促進の取組みにより、北九州港・北九州空港の貨物取扱量が、それぞれ過去最高を更新しましたので、お知らせいたします。

1 貨物取扱量

(1) 北九州港フェリー貨物取扱量の推移

令和6年 フェリー貨物取扱量合計：5,292万トン



(2) 北九州空港航空貨物取扱量

令和6年度 国内・国際貨物取扱量合計：36,603トン

(国内：26,168トン、国際：10,435トン)



2 背景

(1) 北九州港フェリー

フェリー事業者の関連では、

① 平成 27 年度から令和 4 年度のフェリー事業者の船舶大型化

② 令和 3 年 7 月の東京九州フェリーの新規就航

トラック事業者の関連では、ドライバーの時間外労働の上限に関する、物流の 2024 年問題に対応するための、

③ 陸上輸送から海上輸送等に転換する「モーダルシフト」の加速に伴うフェリー輸送のより一層の活用

など、増加する需要に対し、利便性の向上も相まって貨物取扱量が 3 年連続で過去最高を記録した。

(2) 北九州空港

ヤマトグループ・JAL グループによる国内航空貨物定期便が、

① 令和 6 年 4 月：2 往復 4 便で新規就航（成田・沖縄路線）

② 令和 6 年 8 月：3 往復 6 便に増便（羽田路線の深夜早朝便の就航）

③ 令和 6 年 10 月：4 往復 8 便に増便（新千歳路線の増便）

と新規就航、その後の増便により、北九州空港の輸送サービスが強化され、荷主企業の利便性が大幅に向上するとともに貨物取扱量が飛躍的に増加した。

3 今後の取組み

(1) 北九州港フェリー

2024 年 4 月にトラックの時間外労働の規制が強化されたものの、荷主企業にとって輸送方式の見直しは、コスト面・リードタイムなど、様々な負担が生じることもあり、輸送モード転換の広がりには、一定の時間がかかると考えている。

引き続き、国土交通省九州運輸局との情報交換や連携を行うとともに、セミナーなどを通じて、荷主やトラック事業者に対して、フェリーを含めた海上輸送への転換を促していく。

(2) 北九州空港

航空貨物の観点では、九州・西中国は、半導体関連製品、電子機器、産業機械、自動車関連部品など、今後ますます需要を増す、産業・企業が数多く立地しており、こうした貨物需要を北九州空港で取り込み、荷主企業の輸送効率を高めることで地元経済の発展及び国際競争力の強化につなげていく。

北九州空港では、令和 9 年度の滑走路 3,000m 化を見据え、既存の国際・国内貨物定期便の定着や新規路線の誘致、貨物地区の機能強化に取り組み、物流拠点化の推進に努める。

【問い合わせ先】

◆北九州港に関すること

港湾空港局物流振興課（担当：岡本、大田）

TEL：093-321-5941 / FAX：093-321-5936

◆北九州空港に関すること

港湾空港局空港企画課（担当：多比良、永津）

TEL：093-582-2308 / FAX：093-582-0181